

大音量のヒップホップがホールに響く。曲に合わせて若者数百人が体を揺らす。

ポーランド北部の港湾都市グダニスク。ホールは、旧レーニン造船所の一角に朽ちていた建物を改造したものだ。長いバーカウンタートと平行に、荷物を運搬するための溝が床をほう。ダンツイヒと呼ばれるドイツ占領下、潜水艦Uボートを建造した名残だという。

「着想次第でビジネス機会はいくらでもある。自由な時代に育って良かった」市当局から建物を借り受け、寂れた造船所の一部を再生させた学生起業家バルトス・ベルネツキさん(24)は屈託なく話す。年の3分の1は実業家のパーティーなどで貸し切りだ。

別の一角では、きらめくようなヨットが完成間近だった。フランス人の親子が

09-10-29 Y

由の代償 失った活気

「連帯」分裂続ける



「造船所にいた労働者は怠け者なので、やる気のある若者ばかりを雇い入れた」

広報担当者は流暢な英語で説明する。就業者は約400人。失業者の多い街で安価な労働力である若者を集めるのはたやすい。外国企業は波に乗っている。

市中心部の建物に個人事務所を構えていた。「心が痛む。共産主義に勝利する以上のことはできなかった。造船所で生産する98・5%がソ連向けだった。ソ連解体で輸出先を失った」

旧レーニン造船所は、1980年、共産圏で初めて共産党から独立した組織、自主管理労組「連帯」が結成され、東欧民主化の先駆けとなった地だ。だが、今や活気があるのはこの2か所だけ。造船所は96年に破産し、工場設備の大半はウクライナ企業に売られたが、ほとんど操業していない。

土地の再開発も立ち往生し、東京ドーム10個分に当たる広大な墓場のようなかつて「連帯」を率いたレフ・ワレサ元大統領(66)は、この造船所からわずか2時・3時しか離れていない

市中心部の建物に個人事務所を構えていた。「心が痛む。共産主義に勝利する以上のことはできなかった。造船所で生産する98・5%がソ連向けだった。ソ連解体で輸出先を失った」

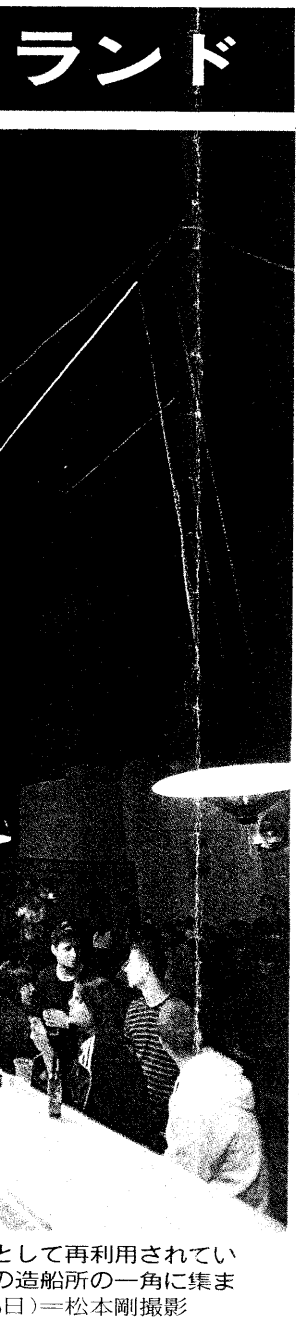
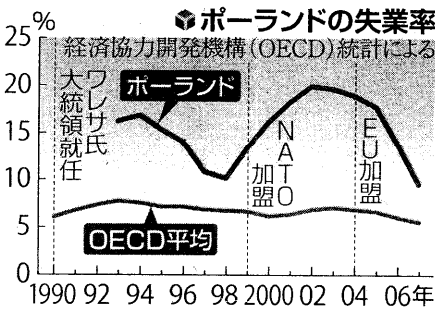
こう言うって唇をかみしめるワレサ氏は「連帯」の目標について「自由と独立だった」と振り返る。それを

達成すると、国造りを巡って「連帯」は分裂を繰り返し、93年には、旧共産党系に政権を譲り渡した。

著名な活動家のアンジェイ(74)、ヨアンナ(70)のギアズダ夫妻は、ワレサ氏との権力闘争で敗れた、かつての同志だ。造船所から約10時・3時離れた郊外の狭い住宅に住む夫妻は、「終身雇用も安定した年金もない、不平等社会になってしまった。こんな国を造るために命をかけたのではない」と吐き捨てた。

人気スポーツを生んだ学生起業家ベルネツキさんに、ワレサ氏の功績について尋ねてみた。ベルネツキさんはしばらく考え、「記憶にないね」と肩をすくめた。

(冷戦終結取材班)



として再利用されている造船所の一角に集まる人々(2009年10月)＝松本剛撮影



松本剛撮影

略歴 1943年、ポーランド北部ポポウオ生まれ。農業技術学校を卒業。電気工となり、67年、グダニスクのレーニン造船所に就職。70年、政府の物価値上げに反発するストライキの先頭に立つ。80年、自主管理労組「連帯」委員長に。83年、ノーベル平和賞受賞。89年、議会選挙で「連帯」が圧勝。90年、大統領に就任。95年の大統領選では落選した。

——1989年とは、どういう年だったか。

「ポーランド総選挙、ベル

9年前に会社を起し、一部を利用して、中には280万円(約3億6400万円)もする豪華ヨットを造り始めたのだ。

自

ポ

■ ワレサ元大統領

造船所の惨状 心が痛む

った

——ソ連崩壊当時は。

「もちろん、うれしかった。だが、ソ連解体で我々は市場と協力を失った。新たな買い手は現れなかった。造船所の惨状には心が痛む。十分なことができなかったと恥じている」

——「連帯」の功績について後世の評価は。

「連帯は、(共産党による)一党独裁体制を打倒するた

め、人々をまとめあげ、力を蓄えた。次に、複数政党制や資本主義を根付かせようと、その力を分散させなくてはならなかった。私は指導者として正しい役割を果たした。今や、政党も経済権益も分裂し過ぎた。一部の国民は、いかに一党独裁体制がひどかったかを忘れ、むしろ懐かしく思い出したりしている」

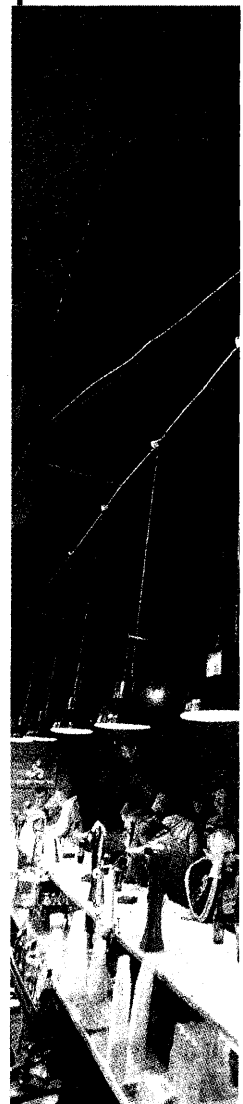
——48歳のオバマ氏よりもずっと若い40歳でノーベル平

和賞を受賞したが。

「年齢でなく功績が問題だ。私はすでに受賞時、共産主義に対する勝利を達成していた。彼は何も実現していない。これから(受賞者の)基準に達しなければならぬ。道のりは遠い」

——初代大統領としてやり直せたら、どうするか。

「特にはない。別の考えもないわけではないが、もはや何の影響力もない」



ナイトクラブで遊ぶグダニスクの若者たち